

塘研究室現地調査報告 12

10月30日に表磐梯にて現地調査を実施しました。林宏至朗君の調査の第7回目で、塘と塘研究室3年生の小林凌君が同行しました。この日は午後から雨の予報でしたが、朝は「調査終了まで天気もつてくれそう」という期待を抱かせる日射しがありました。水生植物の被度調査は林君と小林君が、池周囲での水生昆虫の成虫調査は塘が担当しました。とは言え、水生昆虫の成虫の時期はそろそろ終わりのため、池の周囲ではトンボ類はアキアカネとオオアオイトトンボ、トビケラ類はババホタルトビケラとキリバネトビケラ属一種のそれぞれ2種類ずつの確認に留まりました。キリバネトビケラ属は1個体のみでしたが、ババホタルトビケラは1ヶ所で多数の成虫を確認しました。本種は幼虫が流水性の種で、池内からも幼虫は未記録です。確認した場所は1ヶ所だけでしたが、30個体以上が水際のリターや倒木上にとまっていた（近づくと一斉に飛び上がり、飛びまわる）。池内の抽水植物も多くが枯れ始め、先月は浮島に多数見られたバッタ類やササキリ類などもほとんど姿を消しました。池の水位はさらに下がり、すべてのログーと水位計が露出していました。予報よりも早く、お昼前から雨が降り始めました。午後は林君と小林君が底生動物の調査を実施しましたが、二人ともずぶ濡れ状態になりました。風も若干吹き、体感ではかなり寒い中でのつらい調査になりました。この日は吾妻山系には降雪があり、磐梯吾妻スカイラインは積雪のため、夕方から通行止めになりました。来月は最後の調査です。



朝の池の様子



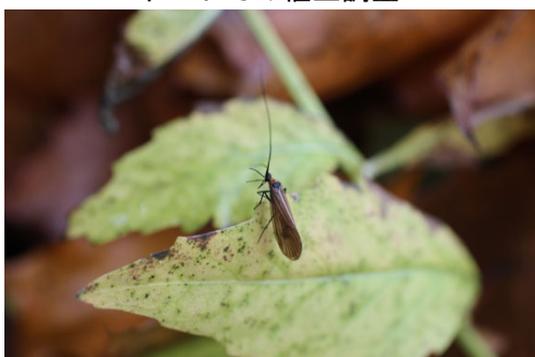
池と磐梯山



ボートでの植生調査



アキアカネのペア



ババホタルトビケラ



キリバネトビケラ属の一種